

# 寄附金の使い道

平成29年1月から平成30年3月までにいただいたふるさと納税寄附金は村の貴重な財源として、平成30年度さまざまな事業に活用させていただきました。主な事業を紹介します。



## タブレット端末の整備

導入されたタブレット端末でICT教育を実践しています。調べ学習や理科の学習などでタブレット端末を活用し、学習意欲の向上や学習理解の促進を図っています。大蔵小5年生の理科の授業では、タブレット端末でヘチマとヒョウタンの花を撮影し、その写真をタブレット端末で拡大しながら、花の絵をノートに描き写して、花のつくりの違いを学習しています。



## 棚田の保全に活用

大蔵村には、日本の棚田百選の「四ヶ村の棚田」をはじめ、約200haの棚田があり、昔から山の傾斜を利用した稲作が行われてきました。棚田の斜面は傾斜がきつく、面積が広いので、草刈はとても大変な作業です。このような苦労があるからこそ、懐かしい田園風景を守ることができています。今後も棚田の保全に対する支援に力を入れていきます。



## パイプハウスの整備

村の農業振興を目的とし、園芸作物のパイプハウス整備事業を行いました。大蔵村は水稻栽培のほか、トマトやきゅうり、たらの芽などの園芸作物の栽培が盛んです。特に、トマトは山形県トップの生産力を誇り、関東や中部地方を中心に出荷されています。現在、村内には39名のトマト生産者がおり、切磋琢磨しながら大蔵村の農業を盛り上げています。



## 日本一の豪雪地の除雪

445cmの積雪深を記録した肘折温泉がある、大蔵村。雪深い地域だからこそ、日本一雪に強い村を目指しています。1年の3分の1が雪に囲まれますが、住民が安心して生活ができるように、除雪車14台を配備し、村道を中心にきめこまかな除雪や排雪作業にあたっています。



## 子育てしやすい村へ

3歳から5歳児の保育料無償化、中学生までの医療費無料化などに取り組んでいます。各種予防接種や妊婦健康診査の助成なども行っています。1歳から開始するむし歯ゼロを目指す予防事業も特色で、全国でもむし歯の子どもが少ない村として表彰を受けています。



## 村営バスが重要な交通機関

民間事業者が撤退したことにより、平成29年度から村営バス「肘折ゆけむりライン」の運行を開始し、隣の新庄市と大蔵村の肘折温泉をつないでいます。村営バスは、住民の通学・通勤・通園の足として活用されています。免許返納者の移動手段として今後さらに重要になってきます。

# 山形県大蔵村ふるさと納税

／ たくさんのふるさと納税ありがとうございます！ ／



大蔵小学校では新JIS規格の机が導入され、これまでよりも幅・奥行ともに5センチずつ大きくなり、広々とした机の上で学習することができています。



大蔵村へのふるさと納税寄附額(平成29年1月~平成30年3月)

## 1億5,613万4千円

使い道	寄附件数	寄附金額(円)
村政一般への活用	2,412	37,496,000
明日を担う子供たちの教育への活用	4,225	65,223,000
環境や景観の保全への活用	1,119	16,329,000
安心安全な村づくりへの活用	574	8,520,000
ふるさと産業の振興への活用	1,406	21,487,000
その他	464	7,079,000
計	10,200	156,134,000

山形県大蔵村は人口3,400人ほどの村で、総面積の85%を山林が占める、自然豊かなところです。山々に囲まれ、冬には多いときで4mを超える雪が降り積もります。豊かな水や肥沃な土地を生かし栽培された米や野菜は、大蔵村を代表する特産物として高い評価を得ています。近年では、トマト栽培に力を注ぐ農業者も多く、トマトが村の代名詞になりつつあります。また、豪雪地としても知られる肘折温泉郷は、開湯1200年の歴史があり、ひなびた雰囲気のある湯治場としても人気です。山形県で最も人口規模の小さい村ながら、産業振興や子育て支援、さらには高齢者支援など力をいれていきたことがたくさんあります。大蔵村のこれからもぜひ応援してください。